

『今月の天候と農作業』

通巻第5557号

7月号

平成25年 7月 5日発行

宮崎県

宮崎地方気象台



【九州南部1か月予報】

向こう1か月の気温、降水量及び日照時間の各階級の予想される確率は次の通りです。

【確率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	30	40	30
降水量	九州南部	30	40	30
日照時間	九州南部	30	30	40

【概要】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。

<1週目の予報> 7月 6日(土)～ 7月 12日(金)

向こう一週間は、期間の前半は前線や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、6日は雨の降る所があるでしょう。期間の後半は高気圧に覆われて晴れる見込みです。(詳しくは週間天気予報をご利用ください。)

気温は、平年並の確率50%です。

<2週目の予報> 7月 13日(土)～ 7月 19日(金)

天気は、平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。

気温は、平年並の確率50%です。

<3週目から4週目の予報> 7月 20日(土)～ 8月 2日(金)

天気は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

普通作物

◆ 早期水稲

今月は収穫時期となります。最後まで適正な管理を行い高品質な宮崎米を生産しましょう。

なお、収穫作業は猛暑の中で慌ただしくなるため、機械の安全操作や、ゆとりある計画で事故防止に努めましょう。

1 水管理

台風襲来時は深水で倒伏の軽減を図ります。台風通過後も吹き返しの乾燥風で玄米品質低下が発生する場合がありますので、急な落水は控えます。なお倒伏した場合は、穂発芽しやすいので速やかに排水します。収穫の5日前までは間断かん水を続け、玄米品質の向上を図りましょう。

2 防除

早期水稲ではカメムシ被害による品質低下が目立ちます。地区防除基準を参考に、周辺ほ場への薬剤飛散に注意し防除しましょう。

3 収穫

収穫の目安は、全籾の80%以上が黄化している時期とします。早すぎると青未熟米が、遅れると胴割れ米が発生しやすくなります。

4 乾燥調整

収穫後の籾は蒸れるとヤケ米が発生するので、速やかに通風や乾燥作業へ移します。急激な乾燥による品質低下を防ぐ為に、なるべく乾燥温度は40度以下で行い、水分14.5～15%に乾燥します。

◆ 普通期水稲

1 水管理

中干しが不十分だと倒伏し易くなるだけでなく、穂数や籾数が過剰になると、玄米の登熟が低下し、白未熟粒も発生しやすくなります。中干しは収量・品質に大きく影響する管理ですので、茎数が20本程度になったらしっかり行いましょう。

なお、過度の中干しは根が切れて悪影響となりますので、田面に足跡が付く程度から軽いヒビが入る程度とします。中干し後入水する時には、走水を1～2回行った後に入水します。

2 病虫害防除

ウンカ、コブノメイガ、葉いもちなどが発生しますので、ほ場での観察と予察情報をもとに適期防除を行います。

3 追肥

「ヒノヒカリ」では幼穂の長さが10㎝になってから、葉色に合わせて適量を施用します。「おてんとそだち」の施肥量はヒノヒカリよりやや少なめに行います。

◆ 大豆

1 施肥

大豆は土壌pH6.0～6.5が適するので、苦土石灰を地域の基準をもとに施用します。元肥は前作物を考慮し窒素過多に注意します。

2 耕起、整地

大豆は湿害により発芽率が低下しやすいので、十分な排水対策と高畦栽培に努めます。また、発芽を揃え雑草の発生を抑えるために、耕耘は丁寧に行います。

3 播種

発芽安定と鳥害軽減のため、種子はキヒゲン等で必ず粉衣しましょう。条間60～70㎝、株間20～10㎝位で播き、覆土の厚さは2～3㎝にします。播種が7月下旬以降になる場合はやや密植にします。除草剤は播種直後に散布します。散布後に追播すると発芽しないので、注意しましょう。

(鎌田 博人)

施設野菜

◆ 夏秋野菜の高温対策

中山間地域の露地きゅうり、雨よけトマト、ピーマンなどでは本格的な収穫時期となります。

雨よけ栽培では梅雨明け後の高温対策が重要となりますので、ハウスは日中できる限り解放し換気に努めるとともに、寒冷紗などを利用し2割程度の遮光を行い、ハウス内の気温低下や果実や葉の温度が上がらないように管理します。

特に、曇雨天後の晴天日は萎れやすくなるので、早朝からのかん水や、翌日が確実に晴れの場合は、前日の夕方のかん水も効果的です。

なお、薬剤散布は、高温時に行うと葉焼け等の障害が発生しやすいので、午後温度が低下する時間帯に行います。

◆ いちごの育苗管理

年内の収量を確保するため、7月中旬までには採苗を終え良質苗の生産に務めましょう。採苗後のかん水は、晴天時は早朝に充分行いますが、乾燥するようであれば午後にも夜間に過湿にならない程度にかん水します。

子苗時期の施肥量は多すぎないように注意し、施肥は鉢底から根が確認できる時期から行います。

育苗期の管理として病虫害防除が重要となりますが、炭そ病は定期的な薬剤散布を行い、発病が疑われる場合には周辺の株とあわせ直ちに処分してください。ハダニについても発生を見たら直ちに防除を行うなど徹底した管理を行います。また、うどんこ病についても育苗床での徹底防除が重要となりますが、肥料であるケイ酸カリを1株あたり2～3g²施用することにより本ぼでの発病を抑制する効果があります。

(郡司 孝幸)

葉茎根菜類・いも類

◆ 秋冬野菜の土づくり

にんじんやだいこん、ほうれんそうやキャベツといった秋～冬にかけて栽培する作物の収量・品質を高めるためには、夏場のほ場管理が重要で、土壌pHの矯正や深耕や堆肥等の有機物の投入による土づくりを行います。

◆ かんしょ

4月植付けのマルチ栽培が収穫期となります。植付け後110～130日が収穫の目安です。今年は初期の低温で生育がやや遅れましたがその後は天候も回復し平年並みの肥大が予想されます。90日を経過したら試し掘りを行い、芋の肥大状況を確認して収穫を始めてください。また、収穫が遅れると皮色や形状が悪化しますので適期収穫に心掛けましょう。

◆ さといも

芋の肥大には土壌水分が大きく影響するため、かん水を行い草勢の維持に努めてください。

3月植えの石川早生が下旬から収穫期となります。試し堀りを行い肥大状況を確認してから収穫を始めてください。また、収穫が遅れると「水晶芋」が発生し品質低下につながりますので、収穫は計画的に行い8月中旬には終了するよう心掛けてください。

中晩生種は7月上旬から子芋の肥大、孫芋の着生時期となりますので、梅雨明け頃を目安に追肥・土寄せ行ってください。また、晴天が続けば場が乾燥すると芽つぶれ症状が出やすくなりますので、適宜かん水を行い品質向上に努めて下さい。

◆ しょうが

普通栽培では、上旬が1回目の追肥の適期となります。10㎡当たり窒素成分で3～5kgを施用し、追肥効果を高めるために土寄せも併せて行ってください。また、梅雨明け後の高温乾燥期は乾燥害を受けやすくなるため、適宜かん水を行いますが、畝間にかん水する場合は滞水しないよう注意が必要です。

(河野 健次郎)

果樹

1 常緑果樹

◆ 温州みかん

7月中旬から収穫前までが仕上げ摘果の時期になります。今年の温州みかんは、全体としてはある程度の着果が見られます。

極早生温州では、7月10日の果実横径は、38～48mmが理想です。結果量が多く、肥大の悪い樹については早めに仕上げ摘果を開始し、結果量が少なく、肥大の良い樹については、仕上げ摘果を遅らせましょう。

結果部位によっても摘果時期が異なります。樹冠下部は早めに、樹冠上部は遅めに摘果することで、適正な肥大を確保しましょう。

樹冠上部の天なり果を摘果すると、夏枝が発生するので、収穫時に除去しましょう。

◆ 完熟きんかん

開花期のアザミウマ類や灰色カビ病の発生は、果実品質を大きく低下させます。開花期の防除を実施するとともに、枝をゆすって、花びら落としを行いましょう。

満開期にビニル被覆を行った園地では、高温による結果不良が出始めるので、早めに除去しましょう。

◆ マンゴー

7月下旬以降の剪定は、第二新梢の充実が悪くなることから、翌年の花芽形成を悪くすることがわかっています。早めに剪定を行うよう心がけましょう。どうしても下旬以降の剪定になる場合は、8月まで剪定時期を遅らせて、第二新梢を発生させない方法により、翌年の出荷時期を早める方法について、検討しましょう。

剪定を行ったら、発芽を早めるために夜間の保温や昼間の蒸し込みを行いましょう。

既に新梢の発生している園では、葉面散布や発根促進剤の利用、新梢の整理によって、新梢の充実促進を図りましょう。

施肥は、土壌分析の結果を見てから、必要に応じて実施しましょう。

(山口和典)

花き

◆ キク共通

梅雨が明けると6月からの曇雨天から一転し、日差しの強い日が続きます。葉焼けなどが発生しやすい時期になりますので、本ぽでは遮光や換気を行い、葉温の低下を図りましょう。また病害虫が発生しやすいので、予防散布を徹底して被害の発生を防いで下さい。親株ほ場においても防除を徹底し、苗とともにアザミウマ類やダニ類、白さび病を本ぽに持ち込まないよう気を付けましょう。

◆ 夏秋ギク

「フローラル優香」の8月出荷では花芽分化・発達を促すために消灯後から12時間日長のシェード栽培を実施して下さい。期間は2週間を目安とし、その後は天葉や蕾の生育状況を見て再シェードを行うなど調整して

下さい。夜間はシェードを開放し、気温が高くなならないよう管理して下さい。高温や消灯遅れ、多肥によって貫生花の発生が多くなりますので、適正管理に努めましょう。

また、「精の一世」では高温の影響により開花遅延や奇形花が発生しやすくなりますので、日中は十分な換気を行いましょう。

◆ 秋ギク電照

キクは節間伸長や生育の揃いを良くする目的で2～4℃で冷蔵処理を行います。主力である「神馬」系品種は穂の冷蔵期間が長くなると定植後の活着が悪い傾向にありますので冷蔵期間は3週間を目安としましょう。

「神馬66-4」「神馬2号」は高温に遭遇すると腋芽が出にくくなり、穂が不足する場合がありますので、親株床はできるだけ涼しくし、親株の株数も余裕を持って植え付けを行いましょう。

◆ 洋花類

秋に定植するほ場の土壌診断を必ず実施し、分析・診断結果に基づいた施肥を行いましょう。また、改良太陽熱消毒等の土壌消毒を実施し、連作障害の回避に努めて下さい。トルコギキョウ、デルフィニウムは冷房施設等を利用した育苗期になりますので、適切な温度管理を実施して、早期抽だいやロゼット防止に努めて下さい。

◆ ホオズキ

8月出荷分は上旬から段階的にピンチ・着色のためのホルモン処理を実施して下さい。今年度は各種病害虫の発生が多く見られますので、ホルモン剤散布の1週間前までにはアザミウマ類・ダニ類・うどんこ病等の防除を徹底して下さい。ホルモン剤散布後の高温は色ムラ発生の原因になりますので、散布はできるだけ涼しい早朝に実施し、散布後数日は必ず寒冷紗により遮光して下さい。

◆ シキミ

春に定植した苗については、梅雨明け後の急激な高温・乾燥により枯死する危険性がありますので、かん水の実施や株元に敷きわらなどを実施し、極度な乾燥を防ぎましょう。

(中村 広)

畜産

◆ 家畜

今月は、本格的な酷暑の時期を迎えます。梅雨明け後の晴天は急激に気温が上昇し、家畜にとって大きなストレスになるとともに、食欲不振によりその後の生産性に大きく影響することになります。具体的な暑熱対策については以下のことに留意して、快適な畜舎環境づくりに努めましょう。

① 畜舎内外の温度を下げる

畜舎の屋根に石灰や断熱塗料を塗ることで、畜舎内の温度が2～3℃下がります。日中の暑い時間帯の屋根への散水も畜舎内の温度低下に効果があります。

② 家畜のストレスを低減させる

肉用牛では気温が30℃を超えると飼料の摂取量が落ちるなど、活動に何らかの影響が出るといわれます。密飼いを避けて畜舎内の風通しを良くし「イライラ」を無くしましょう。

③ 家畜の健康維持に努める

冷たい水を充分飲めるようにし、涼しい時間帯に消化の良い良質な飼料を数回に分けて給与しましょう。また、ビタミン、ミネラルを投与して肝機能の低下を防ぎましょう。

④ 異常家畜の早期発見・治療に努める

夏場の病気がその後の発育等に大きく影響します。早めに家畜の異常を確認し、早期の治療を心掛けましょう。

◆ 飼料作物

今月下旬からトウモロコシの収穫が始まります。サイレージ調製する場合は栄養価も高く最適な水分含量である黄熟期を目安に収穫しましょう。

◆ 最後に

暑い中での農作業で疲れがたまりやすくなる時期ですので、農業機械等の取扱に十分に注意し、農作業中の事故防止に努めましょう。

(小坂 昭三)

特用作物

◆ 茶

1 三番茶の摘採

三番茶の摘採は、二番茶の摘採から30～35日後が目安です。この時期は新葉の硬化が早く、摘採期の幅は同一品種、条件で3日程度ですので、摘み遅れに注意し、お茶の価格と経費を考慮した計画的で無理のない摘採を心がけてください。特に、気温が高いため生葉管理に注意し、葉傷み等の欠点が出ないように注意して製造してください。

2 病害虫の防除

チャノキイロアザミウマやチャノミドリヒメヨコバイ、ハマキムシ等の害虫の発生が多い時期ですので、茶園をよく観察し、適期防除を心がけてください。また、気温が高く輪斑病の発生が増加する時期でもありますので、三番茶摘採直後に地区の防除基準に従って防除してください。

3 更新茶園の整枝

一番茶後に中切りした茶園では、7月上旬と8月上旬に2回の整枝を行い、二番茶後に中切りや深刈りした茶園では、8月上旬に1回整枝を行います。整枝は、いずれも中切りや深刈りの位置から3～5㌘上げた位置で実施してください。

4 幼木園の管理

定植当年の露地苗は根域が浅いため、梅雨明け後の干害に注意して下さい。また、ペーパーポット苗の場合も、植え込みが浅くポットの上部が地表から出ている場合には、ポット内の土壌が乾燥し苗が枯死することがありますので、土寄せや敷きワラ等を行い、土壌の乾燥を防ぎます。

1～2年生の幼木園では、台風の影響に備えて、7月中～下旬に徒長枝の摘心やせん枝を行います。また、ソルゴーの間作は防風効果が高く、台風対策に有効ですので、7月上旬までに播種して下さい。

(佐藤 邦彦)

◆ しいたけ

伏込地の湿度管理と高温対策を徹底し、しいたけ菌糸をまん延させ、害虫の侵入を許さない健全なほだ木づくりに努めましょう。

1 裸地伏せの場合

笠木を厚さ30㌘程度に補充し、直射日光による高温障害に注意すると

ともに、周囲の刈払いを実施し、風通しを良くしましょう。

2 林内伏せの場合

直射日光が当たる箇所には、笠木の補充や遮光ネットを設置しましょう。特に湿気が多い場合は、ほだ木の積み替えや天地返しを行うとともに、周囲の刈払いを実施し、風通しを良くしましょう。

3 人工ほだ場の場合

特に高温・乾燥の害を受けやすいため、遮光ネットによる庇陰の調整や散水などにより、温湿度の管理を徹底しましょう。

4 病虫害の防除

この時期は、害菌や害虫が活動しやすい時期ですので、ほだ場の巡回を行い、防除に努めましょう。

(小田 三保)

◆ たばこ

今月は、総掻きが主な作業となります。

1 総掻きは、未熟葉の収穫を避け、十分に熟度を進めて行い、最上位本葉の成熟を確認して開始しましょう。また、成熟の目安としては葉色でなく、葉や中骨が左記の状態になっているか確認して下さい。

- ① 葉の表面が凹凸になり葉先が枯れる。
- ② 上位葉（4枚目）の中骨が白化して中骨の表面が平らとなり中心にミゾができ、ポキッと明音がして折れやすくなる。
- ◎ 総掻き時の注意点としては左記の通りです。
 - ① 着位区分は徹底しましょう。
 - ② 持てない流れそうな合葉の拾い取りを確実にし、収量確保に努めましょう。
 - ③ 上位葉4枚程度を区分収穫し、包内品位を高めましょう。（風になびくような上葉は収穫しない）
 - ④ 立枯葉は活力のある内にグジリ取りを行いましょ。乾燥は、当日吊込みが良いでしょう。

2 残幹根は土壌中の菌密度増加につながりますので、収穫終了後、早期に除去し、ほ地外へ持ち出して、耕種的防除に努めましょう。

3 異物・異臭・虫害発生防止のため、定期的な確認と作業場の清掃を行いましょ。

また、早期販売に向け、水分・異物・虫害の確認を行い、出荷包の事前準備を行いましょ。

(井上 馨)

内容の詳細について

7月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県営農支援課及び森林経営課、宮崎県たばこ耕作組合が担当しています。各作物の病害虫の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

☆「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

(<http://nougyoukishou.pref.miyazaki.lg.jp>)

なになに農業アラカルト

6次化へチャレンジ！

塾受講生募集中！！



◆ はじめに

みやざき6次産業化サポートセンター（県農業振興公社）では、6次産業化を目指す農林漁業者やその支援人材を育成する「みやざき農林水産業経営多角化チャレンジ塾」の受講生を募集しています。

◆ 6次産業化とは？

6次産業化とは、1次産業である農林水産業が加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）を展開していく取組で、 $1 \times 2 \times 3 = 6$ 次産業で表されます。

農林漁業者自らの新たな発想や他産業の力を活用し、地域の特色を生かした新商品の開発や販売などにより農山漁村地域へ所得を呼び込むことで、雇用を生み出し、本県農林水産業の活性化を目指しています。

◆ 取り組みのポイント

6次産業化へ取り組むには、食品加工・衛生管理、マーケティングなど新たなノウハウに加え、経営の多角化による財務・労務管理などの経営感覚が求められます。このため、チャレンジ塾では、これら専門知識や技術の習得を支援します。



◆ **開催内容**

※修了要件…各コースとも20講座以上の受講が必要です。

①「グローバル農業法人育成コース」(定員20名程度)

6次産業化に取り組みたい農林漁業者等を対象に、食品加工技術、マーケティングのノウハウ、法人化、財務管理等を学びます。全29講座(必須10、選択19)

②「6次化推進プロデューサー育成コース」(定員20名程度)

経営コンサルタント、食品産業や金融機関、JA・市町村の職員等を対象に、6次産業化へ向けた事業計画の作成やその具現化に向けて農林漁業者に助言・支援するための専門知識の習得を目指します。全34講座(必須10、選択24)

◆ **募集期間**

平成25年6月24日(月)～7月22日(月) 必着

◆ **開催日程**

平成25年8月20日(火)～11月1日(金) ※主に毎週火曜日に開催

◆ **開催場所**

開講及び閉講式＝宮崎県立図書館、講座＝宮崎県農協会館(JA・AZM)

◆ **講師**

県内外の専門家など様々な人材を講師として招聘します。

◆ **受講料**

各コース4,000円/人(消費税込み)

◆ **応募先**

公益社団法人宮崎県農業振興公社 ☎0985(51)2011
〒880-0913 宮崎市恒久1丁目7-14 ※応募〆切7月22日(月) 必着

◆ **その他**

受講を希望される方は、この他にも応募要件や提出書類等がございますので当公社のホームページでご確認ください。

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稻	葉いもち ※ 紋枯病	並 並	葉いもちが発生している場合は、穂ばらみ期から穂揃期の防除を確実に 行います。 カメムシによる被害は、早期米の等級格下げの重要な要因ですので発生 に注意し確実に防除します。穂揃い期とその7～10日後の2回防除を徹底し ます。多発して防除後も残存虫が確認される場合は、さらに3回目の追加 防除を行います。
	斑点米カメムシ類	やや少	
普通期水稻	葉いもち ※	並	苗いもちの発生を確認しています。本田での初発生に注意し、早期防除 に努めます。 セジロウンカの初飛来を5/29延岡にて、トビイロウンカの初飛来を6/18 延岡にて、コブノメイガの初飛来を6/2佐土原にて確認しています。今後 とも当センターの発生予察情報等に注意してください。 ニカメイガは、近年飼料イネにおいて被害が広範囲で確認され、本年は 早期水稻についても被害を確認しています。7月上中旬頃の発蛾最盛期に 粒剤を施用するのが効果的です。 スクミリンゴガイの生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施薬を 行います。
	ウンカ・ヨコバ イ類 コブノメイガ ニカメイガ スクミリンゴガ イ	並 — — 並	
水稻共通	いもち病	—	県内の一部地域でストロビルリン系殺菌剤(QoI剤)に対する感受性の低 下したいもち病が確認されたため、防除情報を発表予定です。
野菜・ 工芸作物	アブラムシ類	並	アブラムシ類は、各種のウイルス病を媒介しますので育苗期から周辺の 寄主植物を含めて防除します。育苗施設は野外からの飛び込みを防ぐため に、防虫ネット等で被覆すると効果的です。 ハスモンヨトウは、ふ化直後に葉裏で集合して加害しますので、この時 期の発見に努め、若齢幼虫期に防除を行います。
	ハスモンヨトウ 等チョウ目害虫	並	
ウリ類	黄化えそ病	—	媒介虫であるミナミキイロアザミウマの生息密度を抑制するため、定期 的に防除するとともに、ほ場周辺の除草に努めます。 本病と疑われる症状が発生した場合は、最寄りの農林振興局・西臼杵支 庁（農業改良普及センター）または当センターまで連絡をお願いします。
いちご (親株)	炭疽病 ※	—	親株から採取した葉を検定した結果、感染株率が過去8年間で3番目に高 く、防除情報を発表しています。親株における本病の検定に努め、感染が 確認されれば適切に処分するとともに、健全な親株への定期的な更新に努 めます。
果樹全般	果樹カメムシ類	並	成熟の早いナシ・ブドウ等の果樹類を集中して加害する恐れがあります ので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努めます。
カンキツ (露地栽培)	黒点病 かいよう病	並 やや多	黒点病は、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回の防除から積算 降水量300mmを散布間隔の目安として薬剤散布を行います。 いずれも生息密度が高くなると防除が困難になるので、早期発見・防除 に努めます。
	カンザワダニ チャノキイロアザミウマ	やや多 並	
茶	炭疽病	やや多	炭疽病の発生が多いため、注意報を発表しています。二番茶残葉に炭疽 病の発生がみられる茶園では、三番茶でも多発する恐れがあるため、三番 茶萌芽期～1葉期に重点的に防除します。
	カンザワダニ チャノコカクモンハマキ チャハマキ チャノボカ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	並 並 並 やや多 並 やや多 やや多	カンザワダニ、チャノキイロアザミウマは、多発してからでは防除が 困難になるので早期発見・防除に努めます。 チャノコカクモンハマキとチャハマキの防除適期は、初蛾最盛期の7～ 10日後で、両種の発蛾最盛期の差が10日以内であれば同時防除が可能で す。 クワシロカイガラムシの防除適期は、幼虫ふ化最盛期です。時期を逸す ると防除効果が低くなりますので、ふ化状況を確認してから薬剤散布を行 います。

- 1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。
2) ※については防除情報を発表していますので、詳しくはホームページをご覧ください。
病害虫防除・肥料検査センターのホームページアドレスは、<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>です。